

2022年3月期通期決算説明会（オンライン）の主な質疑応答

- Q：PPT資料のP22の営業利益の対前年増減について、価格対応62億円とあるが、値上げの進捗の事業別の強弱感、製品別や市場別の値上げの進捗度合いについて、考え方を教えて欲しい。
- A：売上の一番大きいM&T分野が約45億円、PS分野で約10億円、MS分野で約8億円を見込んでおり、それを今回の業績予想に組み込んでいる。民生用と業務用という分け方では、M&T分野のアフターは比較的早めに価格対応を行っており、M&T分野の金額のアフター分については近いところまで価格対応がなされたと考えている。アフターについては4月時点で100%近くまで価格対応は進んでいる。OEMについては昨年後半から色々と交渉しているが、4月1日の時点での値上げ状況は目標の50%程度で、そこから下期にむけて100%を目指したい。45億円中、アフターが約25億円と認識している。
- Q：増減要因に分けて出てきていないが、為替がかなり円安に動いており、ドルとユーロで影響の出方も変わってくると思われる。その他の通貨も動いている状況の中で、今年度の為替影響はプラスかマイナスか？もし数字があれば、主要通貨の為替感応度の数字を教えて欲しい。
- A：22年度は、USドルについては海外で作っているものはUSドル建てが非常に大きく、国内向けの生産も多いので、輸入超過約3億ドルあり、1円変わると約3億円の影響がでるイメージ。ユーロについては、円安に振れると1円で約1億円良くなるイメージ。今年度については、輸入超過約3億ドルの8割以上は予約済なので、足元年明けから急激に円安が進んでいるがほとんど影響はない。来年度以降についてはまだ予約をとっていないので影響がでる可能性あり、別途対応を考えている。
- Q：四半期業績トレンドの考え方について、前期第4四半期だけを見ると売り上げも利益も非常に高い水準が出ていて、その勢いを考えると今期色々と不透明要因があるにしても数字が力強さに欠ける印象を受けたが、第4四半期をピークに、第1・第2四半期にむけて業績が悪化していくところの考え方について解説してほしい。
- A：第4四半期は過去2年と比べても大きな売り上げと利益だった。その背景としては、第2四半期・第3四半期で生産ができず、マーケットが在庫のない枯渇状態であるところに第4四半期に一気に生産を回復し、注残になっていたものを投入できた。我々としてもこの第4四半期の勢いで一気にいければ有難いが、ある程度マーケットにも製品が供給できる状況になったこともあり、そのままストレートにこの勢いが続くとは見ていない。懸念しているのは上海ロックダウンの影響。我々への生産影響に加え、中国は我々のM&T分野の事業においてかなり大きいマーケットなので、その状況がどう動くか、或いは、ウクライナ状況含めたヨーロッパの景気等どうなるか、多少我々も読みづらいところもあり、そのあたりを考慮し、保守的とは言わないがある程度のそれらによる影響も含めての今回の業績予想と考えている。我々の今の立ち位置でいうと、売上収益の規模感、受注状況からみてこれをやるだけの力は十分にあるとみており、いかに生産・供給をすることが経営としての大命題であると考えている。参考までに上海のロックダウン影響だが、今日（4/28）から上海工場は再開許可が出て限られた人数であるがやっと稼働がスタートした。
- Q：M&TのDOP新規案件について。今期どのぐらいから貢献がでて、来期にどのようにつながるか？規模感は？
- A：日本大手メーカーから用品（ディーラーオプション）を受注しており、出荷がこの10月から2年間最低継続形の受注。生産は長野工場。これが大きく貢献すると考えている。月に数万台ぐらいの規模感となる。
- Q：今回、コア営業利益と営業利益の差が15億円あり、22年3月期の4Qには色々と減損もされているが、今期もそういった一時費用等を念頭に置いた計画か？それともバッファか？
- A：特に今ははっきりした費用項目を想定してはいない。今後発生する可能性もあるということでこのぐらいの差額を入れて

いる。

Q：中計達成がみえてきているということで、今期から利益水準をあげていくと思うが、何が牽引していくのか？PS分野の利益拡大を元々目指されていたと思うが、そこが加速してくるタイミングは？

A：前期の実績から言うと、M&T分野を除いては収益的に安定してきた。PS分野の無線は、米国を中心に非常に堅調な受注を抱えているので、今後中期の中で手堅い業績を上げられると考えている。MS分野のメディア事業は、過去色々な構造改革をしてきており、また、赤字事業を終息させたこともあり、これも堅調にいくと思っている。一方でM&T分野は、先ほどご説明したとおり、受注案件が今期下期あたりから大きく貢献することもあり、総合的に中国市場でのOEMの貢献など考慮すると、十分に射程圏内にあると考えている。

Q：PPT資料のP23のセグメント別今期予想について。M&T分野の売上収益は前期に比べて10%前後伸ばす数字だと思うが、これはそもそも市場（の伸び）に対して高い数字なのか市場並みなのか？特にOEMでは内訳があると思うが、何が伸びを牽引すると見ればいいのか？子会社のASKなどが牽引するのか？ブレークダウンを教えてください。

A：市場の伸び以上に、シェアを上げる形で伸ばそうとしている。市場は大きくOEMとアフターに分かれるが、アフターが約500億円前後の規模感。アフターは日本を中心とした割と手堅い市場なので大きく市場の伸びがあるということではないが、先期から部品供給問題があって我々が製品を供給できていないので、受注残をとにかく解消していく。OEMについては、市場の伸びというよりもむしろ我々の受注案件のポーションが増えていくということ。今期の見通しに関しては経済的な事情で車のほうが作れないといったようなことが出てくる可能性もあるが、自動車メーカーと合意した企画台数をベースに今回の見通しを試算している。

Q：研究開発費、設備投資、減価償却費は22年3月期どのような水準だったか？また23年3月期はどのような計画か、できれば数字を、難しければ定性的に教えてください。また、先日新聞記事で見た気がするが、来年春の新卒の採用人数が上がるように認識しているが、これはどのような意図で、どういった分野での人員強化を考えているのか教えてください。

A：設備投資の22年3月期の実績は約220億円。一昨年度200億円切るぐらいまで一回絞ったが昨年度は新規開発や生産の日本回帰などの設備投資もあったので、前年から約30億円増やした。減価償却費は約170億円発生。新卒の採用については、来年度は本年度より増えていくと思う。今後はITC、ソフトウェア、セキュリティ対応といった人材を補充していきたい。過去よりもそういったポーションが増えていくと思うが、明確な内訳については現時点では持ち合わせていない。

Q：半導体などの部品調達について。今年の1-3月に比べて今年の4-6月期、7-9月期は厳しいままなのか、または調達しやすくなるのかなど、現時点の見立てを教えてください。また、半導体などの部品調達について、他社以上に工夫されて頑張っておられる印象を持っている。1-3月を振り返って同業他社に比べて上手く調達できたなど自信を深めていたりしないのか？調達面の力の向上はどのように振り返るか？

A：半導体市場はまだ改善されていない。一部メモリーやDRAMについてはかなり回復してきているという話は出ているが、車載用半導体はまだ厳しい。そういった中で設計変更等を積極的に早めにやったことが、前期第4四半期の伸長に貢献した。半導体の調達ポジションは、超大手メーカーに比較すると我々は規模が小さい状況ではあるが、日々の交渉を調達中心に経営トップも参加しながら行っている。半導体メーカーに対して、優先順位、アロケーションを日々交渉してそれをウォッチして対応していることが結果に繋がったとみている。

Q：電子部品、半導体について、どういったものが前期は足りなくて、今期は解消できるのか？具体的な部品としてどういったところに影響が出てきているのか？各社の決算発表が始まった中では、物流費など流通面問題を指摘されるところも多くなっているが、当社はあくまで部品不足による影響の問題が前期は足を引っ張り、それが今期は解消するか

ら良くなるのか？特にM&T分野について。現在、どこの半導体メーカーも部品メーカーも供給が出来てない上に、上海のロックダウンも重なっており、かなり回転が芳しくないように聞いているが、当社がV字回復を予想する要因を教えてください。

A：供給面・物流面に関して、アメリカ向けの物流面において、過去コロナ影響でコンテナが滞留して物流が通常の3倍ぐらい時間がかかっていた状況が改善したことで、前期4Qの売上貢献に結びつき、今期の1Qもスムーズに荷物は動くと考えている。物流関係でいうと、上海のロックダウンは船便も航空便も滞留しているので、そこは危惧しながら、上海を経由しない出荷などあらゆる対応を検討しながら実行していきたい。半導体については、通常車載用の半導体は、一世代前の製品になるが、その部分については半導体メーカーが設備投資を過去からしていないので不足している。よって、具体的に何が不足しているかと言えば、車載用のマイコン、アンプなど、本当に基本的な部品が不足しているのが今の状況。

Q：中国では、今後1ヶ月間は全く外出できないし物流をする人が全くいないと聞いた。物流コストそのものが倍以上に上昇しているような危機的な状況に現地はなっていると聞いているが、そのあたりは心配しなくていいのか？また車載用の半導体でマイコンなどレガシーな部品は、今期の稼働ベースでも3Qにならないと生産が増えるような状況になると聞いている。当社が優先して調達できるような特別なルートがあるのか？一般的に今マイコンだと3倍ぐらいの値段を出さないと流通から買えないと思うが、このあたりについて教えてください。

A：中国についてはご指摘のとおりだが、それは上海エリアがメインになる。南の方や上海以外にも当社グループの工場はあり日々確認しているが、そこまでロックダウンになっているような状況ではない。上海エリアはあと1か月ぐらい混乱が続くとみている。当社の上海のメインの工場は本日（4/28）から一部稼働できるような状況になっている。外資系半導体メーカーからどうやって調達するのかという質問については、例えば今まである部品を100個購入できていたとして、その部品以外の部品でも生産できるような設計変更を行うことによって、その部品の供給量が50個になっても、他の部品を50個確保することによってまかなう、ということ。これは一つの例だが、そういった考えで今期の半導体に関しては対応を進めていく。

以上